

出願の際は、必ず募集要項(冊子)を入手してください。

令和7年度

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）

学 生 募 集 要 項



国立大学法人

鹿屋体育大学

National Institute of
Fitness and Sports in KANOYA

目 次

1	本学大学院体育学研究科（博士後期課程）のアドミッション・ポリシー	1
2	専攻及び募集人員	2
3	出願資格	2
4	選抜日程	4
5	選抜方法	4
6	出願書類等の提出先及び照会先	4
7	出願方法	4
8	出願期間	6
9	受験票等の送付	6
10	試験場	7
11	合格者の発表	7
12	入学手続・入学料等	7
13	第2次募集	7
14	指導教員及び副指導教員	8
15	障害のある者等の事前相談	8
16	その他	8
17	福利厚生等	9
	◆本学までの主な交通経路	11
	◆鹿屋体育大学位置図	12
	◆入学検定料の払込取扱票等の記入方法	13
	鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）入学案内	14
1	設置の趣旨・目的	15
2	教育研究上の特色	15
3	国立スポーツ科学センターとの連携大学院について	15
4	熊本大学・鹿児島大学・宮崎大学・福岡県立大学との連携大学院について	16
5	履修方法等	16
6	体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）担当教員一覧	17
7	開設授業科目及び授業担当教員一覧（博士後期課程）	20
8	学位の授与	22
9	大学院設置基準第14条に定める「教育方法の特例」	22
10	長期履修学生制度	22
	【添付書類】	
	① 入学願書	
	② 研究計画書	
	③ 研究歴証明書	
	④ 志望理由書	
	⑤ 体育・スポーツ歴調書	
	⑥ 指導活動計画書	
	⑦ 出願書類等提出一覧表	
	⑧ 受験票・写真票	
	⑨ 払込取扱票	
	⑩ 【入学検定料振替払込受付証明書（お客さま用）】貼付用台紙	
	⑪ 入学試験関係書類在中封筒（黄色）	
	⑫ 出願用封筒（薄緑色）	

【選抜日程等】

出 願 期 間	令和6年9月18日(水)～9月24日(火)
選 抜 日 程	令和6年10月23日(水)
合 格 者 発 表 日	令和6年10月28日(月)
入 学 手 続 期 間	令和7年3月17日(月)～3月24日(月)

入学料特別免除制度

本学では、「入学試験の成績優秀者」を対象とした入学料特別免除制度を設けています。
ただし、本学大学院体育学研究科の修士課程を修了し、引き続き本学大学院体育学研究科の博士後期課程に進学する者については、入学料を徴収しないため対象とはなりません。

令和7年度鹿屋体育大学大学院体育学研究科 体育学専攻（博士後期課程）学生募集要項

1 本学大学院体育学研究科（博士後期課程）のアドミッション・ポリシー

21世紀の体育学は、人文・社会科学分野と自然科学分野の諸科学が体系的に融合し、学際的な複合新領域として発展する方向にあります。体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）では、体育学に関する最先端の研究活動を推進するとともに、スポーツや身体運動を通して、国民が健康で幸福を享受できる社会の構築に貢献する高度な専門的能力を有する人材の育成を目指しています。

◎求める学生像

本課程では、次のような人材を求めています。

- 豊富なスポーツ実践活動の経験を有し、科学的な研究成果を実践へと応用することによって、我が国及び諸外国における競技スポーツや武道実践の分野、体育及びスポーツ教育の分野で高度に活躍する意志と能力を持つ人
- 生涯スポーツが国民の健康や幸福に与える価値を認め、我が国及び諸外国のスポーツや身体運動に関する文化、地域政策、医療福祉、健康産業、ビジネスなどの分野で活躍する意志と能力を持つ人
- 国際的な視野と感覚を有し、スポーツや身体運動に関する高い水準の独創的研究によって、世界的な研究者として活躍する意志と能力を持つ人

◎入学者選抜の基本方針

- 一般入試では、各分野で必要な専門知識、これまでの研究内容及び入学後の研究計画を評価するための口述試験、英語能力を評価するための外国語（英語）試験、その他提出書類により総合的に評価します。

ただし、スーパー・スチューデント（SS）及びスーパー・コーチャー（SC）に認定された者は、各分野で必要な専門知識、これまでの研究内容及び入学後の研究計画を評価するための口述試験、その他提出書類により総合的に評価します。

2 専攻及び募集人員

専攻	募集人員
体育学	6人

募集人員6人には次の(1)～(3)の者を含む。

(1) SS・SC（若干人）

SS（スーパー・スチューデントの略）とは、国際大会に出場した経験を有し、その経験を基に、明確な研究テーマを持ち、かつ十分な研究意欲のある者で、事前に本学において認定された者としてします。

SC（スーパー・コーチの略）とは、指導又はサポート歴の特に高い者で、事前に本学において認定された者としてします。

※ SS及びSCの認定と受入体制に関しては、出願に先立ち、令和6年8月19日(月)までに、必要書類を提出する必要がありますので、本学教務課入試係へ申請してください。

(2) 国立スポーツ科学センターにおいて履修及び研究指導を受ける者（若干人）

15頁を参照してください。

(3) 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムにおいて履修及び研究指導を受ける者（若干人）

16頁を参照してください。

(注) 本学博士後期課程においては、転入学及び再入学の制度がありますので、希望者は、本学教務課入試係へ問い合わせてください。

3 出願資格

大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）入試に出願できる者は、次の(1)～(8)のいずれかと(9)の両方を満たす者です。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び令和7年3月までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同程度の学力があると認められた者（注2）
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）（注1）（注2）
- (8) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、令和7年3月までに24歳に達するもの（注2）
- (9) 大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）入学試験実施日から過去2年以内にTOEFL又はTOEIC Listening & Reading Test（TOEIC-IPを含む。）を受験し、一定のス

コア (TOEFL-iBTは24点以上, TOEIC (TOEIC-IP含む。)は300点以上) を取得している者 (ただし, SS又はSCと認定された者は除く。)

(注1) 文部科学大臣の指定した者に該当する者は, 次の者です。

- 1) 大学を卒業し, 大学・研究所等において, 2年以上研究に従事した者で, 本学大学院において, 当該研究の成果等により, 修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- 2) 外国において学校教育における16年の課程を修了した後, 又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後, 大学・研究所等において, 2年以上研究に従事した者で, 本学大学院において, 当該研究の成果等により, 修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

(注2) 上記(6)~(8)により出願しようとする者は, 事前に審査を受ける必要がありますので, 指定する期日までに下記「事前の入学資格審査について」に記載の書類を送付 (書留速達郵便) してください。

なお, 事前審査の手続を行う前に, 必ず研究指導を希望する教員 (研究指導教員となり得る教員) と連絡を取り, あらかじめ入学後の履修・研究内容などについて相談してください。

事前の入学資格審査について

提出期限	令和6年8月19日(月)	
提出書類	全 員	・入学願書 ・最終学校の卒業証明書及び成績証明書 ・学術論文及び論文要旨 (3点まで, コピー可, 論文要旨は日本語で2,000字程度)
	出願資格(6)該当者	大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格したことを証明するもの
	出願資格(7)該当者	研究歴証明書
	出願資格(8)該当者	志望理由書
審査方法	書類審査により実施します。	
審査結果の発表	令和6年9月6日(金) 審査結果を文書で通知します。	
書類送付先及び問い合わせ先	〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学教務課入試係 TEL 0994-46-4869 FAX 0994-46-2533 封筒の表に「博士後期課程事前審査書類在中」と朱書してください。 ※出願用封筒は使用しないでください。	

出願資格に関する注意事項

- (1) SSに出願できる者は, 「国際大会に出場した経験を有し, その経験を基に, 明確な研究テーマを持ち, かつ十分な研究意欲のある者」とします。
- (2) SCに出願できる者は, 「各国代表の選手を指導又はサポートした実績(当該国において, ナショナルチームに帯同したスタッフ (監督, ヘッドコーチ, アシスタントコーチ, アナリスト及びトレーナーなど)) を有し, 高度な指導知識や実践的能力を備えたスタッフとして, 国際的な競技力向上に寄与する意欲のある者で, 指導又はサポートについての明確な研究テーマを持つ者」とします。
※ここでいうナショナルチームとは, フル代表やA代表のことを指し, ジュニアやU-18等年齢別のカテゴリーは除きます。

なお, 出願資格について不明な点は, 令和6年8月16日(金) までに教務課入試係 (TEL 0994-46-4869) へ問い合わせてください。

4 選抜日程

選抜日時	令和6年10月23日(水)
	9:30～
試験科目	口述試験

5 選抜方法

大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）の入学者選抜は、修士論文又はこれに相当する論文及び出願書類と学力試験〔外国語（英語）・口述試験〕の結果を総合して選抜します。

合否判定の基本方針

- 1 外国語（英語）、口述試験及び書類審査の合計得点の高い者から合格とします。
なお、同得点の者が複数の場合には、口述試験、書類審査、外国語（英語）の結果の順に判断します。
- 2 S S又はS Cと認定された者は、口述試験及び書類審査の結果がいずれも可の者を合格とします。
- 3 口述試験及び書類審査の合計得点が30点未満の者（S S又はS C認定者は除く。）は、不合格とします。

学力試験

- ① 外国語（英語）（100点満点で評価）
 - ・外国語（英語）は出願時に提出した「TOEFL 又は TOEIC Listening & Reading Test のスコア」によって評価を行います。
 - ・入学試験実施日から2年以内に受験した TOEFL 又は TOEIC（TOEIC-IP含む。）のテストの結果を評価します。
 - ただし、TOEFL-iBT 24点未満の者、TOEIC（TOEIC-IP含む。）300点未満の者は除きます。
- ② 口述試験（60点満点で評価）（S S及びS C認定者は「可」「否」で評価）
 - ・専門的知識、研究計画及び提出論文等について試問します。
 - ・実施方法は、受験者の研究計画の内容についてのプレゼンテーション後に、質疑応答形式で行います。
 - ・受験者1人当たりの時間は、おおむね20分とします。（内訳：プレゼンテーション時間5分、質疑応答時間15分）
- ③ 書類審査（40点満点で評価）（S S及びS C認定者は「可」「否」で評価）
 - ・研究計画書に基づき、評価します。

6 出願書類等の提出先及び照会先

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学教務課入試係
T E L 0994-46-4869
E-mail nyushi@nifs-k.ac.jp

7 出願方法

出願書類等は一括し、本学所定の出願用封筒を用いて必ず書留速達にて郵送してください。直接持参しても差し支えありません。

なお、出願書類に不備がある場合は、受理しないことがありますので十分注意してください。
記入事項で該当しないものについても、必ず「該当なし」と記入してください。

また、出願書類受付後の記載内容の変更は、認めません。

出願書類等	提出該当者	摘 要
入 学 願 書	全 員	本学所定の様式により必要事項を記入の上、提出してください。 なお、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を希望する者（22頁を参照）は、入学願書の所定欄を○で囲んでください。
受 験 票・写 真 票	全 員	本学所定の様式により必要事項を記入の上、写真（上半身、無帽、正面向きのもので、縦4cm×横3cm、最近3ヶ月以内に撮ったもの。カラー・白黒は問わない。裏面に氏名を記載のこと。）を貼付してください。
修了(見込)証明書	修士課程修了(見込)者	出身大学の学長又は研究科長が作成したものを提出してください。
成 績 証 明 書 (要厳封)	〃	出身大学の学長又は研究科長が作成し、<u>厳封したものを提出してください。</u>
修 士 論 文 等	全 員	修士論文又はこれに相当する論文1部（コピー可）及び前述の論文の要旨5部（コピー可、日本語で2,000字程度）提出された論文及び要旨は、返却できません。 なお、出願時に、修士・博士前期課程修了見込みの者は、「論文の要旨」のみで可とします。
研 究 計 画 書	〃	本学所定の様式により必要事項を記入の上、提出してください。 <u>また、研究指導を希望する教員とあらかじめ履修・研究内容等について相談し、指導の同意を得た上で、提出してください。</u>
TOEFLは受験者控えスコア票 (写真付き)	全 員 (ただし、SS又はSCと認定された者は除く。)	出願書類については、原本を提出してください。（コピー不可。入学試験実施日から過去2年以内に受験したもの。） なお、TOEIC Listening & Reading Testを2023年4月以降に受験し、デジタル公式認定証を発行された者は、IIBC（TOEIC事務局）から発行された「TOEICデジタル公式認定証」を印刷のうえ提出してください。 また、提出された公式認定証等の書類は出願資格確認後、返却します。
TOEICは公式認定証 TOEIC-IPはスコアレポート		
入 学 検 定 料 (30,000円)	全 員 (ただし、本学大学院修士課程修了見込みの者及び外国人留学生は除く。)	同封している払込取扱票（13頁を参照）に必要事項を記入して、令和6年9月11日(水)以降に郵便局の受付窓口で払い込んでください。ATMやインターネットバンキングからの払込みはしないでください。 なお、払込手数料は、依頼人負担となります。 払込取扱票等の※欄には、志願者本人の住所・氏名・電話番号等を必ず記入してください。 入学検定料を払い込んだ後、振替払込受付証明書（お客さま用）に受付局日附印があることを確認し、本学所定の台紙に貼付して出願してください。 また、下記の場合以外は、既納の検定料はいかなる理由があっても返還しません。 ア 出願書類等を提出したが、受理されなかった場合 該当者に連絡しますので、所定の期日までに手続きを行ってください。 イ 検定料を振り込み後、本学に出願しなかった場合 ウ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合又は所定の金額より多く振り込んだ場合 上記イ及びウについては、本人の申し出により納入された検定料及び超過分を返還することができますので、必ず令和6年10月21日(月)までに教務課入試係（電話0994-46-4869）へ連絡してください。

返信用封筒	全 員	受験票及び受験者心得等を送付する際に使用しますので、本要項に添付の封筒に郵便番号・住所・氏名を記入し、郵便切手(400円※)を貼付して提出してください。また、封筒に記載の「殿」は消さないようにしてください。 ※送付先が外国の場合は、必ず事前に教務課入試係へお問い合わせください。
-------	-----	--

【該当者のみ必要】

出願書類等	提出該当者	摘 要
受験承諾書	大学院博士課程在学者	現に他の大学院博士課程に在学している者は、本学大学院の受験についての当該在学大学の学長(研究科長)の受験承諾書(様式任意、要公印)を提出してください。
受験及び入学に関する承諾書	社 会 人	現に学校、官公庁又は民間企業等に在職している者で本学大学院に入学しようとするものは、本学大学院への受験及び入学に関する所属長の承諾書(様式任意、要公印)を提出してください。
住 民 票	日本に在住している外国人	市区町村長の交付する住民票(国籍・在留期間・在留資格を明記したもの。)を提出してください。 また、大学院入学の際には「出入国管理及び難民認定法(昭和26年政令第319号)」による大学院入学に支障のない在留資格を必要とします。
パスポートの写し	日本に在住していない外国人	パスポートの、本人の氏名・国籍・顔写真のわかるページのコピーを提出してください。
研究歴証明書	出願資格(7)該当者	本学所定の様式により必要事項を記入の上、提出してください。
志望理由書	出願資格(8)該当者	本学所定の様式に「大学院で学ぶ動機、理由」(2,000字程度)を記入し、提出してください。
体育・スポーツ歴調	SS・SC認定希望者	本学所定の様式により、大学入学以降の競技歴、指導歴、研究歴等を記入の上、提出してください。 ・SSとして出願する者は、国際大会での競技成績・記録を証明する資料を必ず添付してください。 ・SCとして出願する者は、各国代表選手を指導又はサポートしたことを証明する資料を必ず添付してください。
指導活動計画書	SC認定希望者	本学所定の様式に「入学後及び修了後の指導活動計画」を記入の上、提出してください。

【注】日本語以外で書かれている書類については、必ず日本語の訳文を添付してください。

8 出願期間

令和6年9月18日(水)～9月24日(火)とします。

- ① 直接持参する場合の受付時間は、8時30分から17時15分までとします。
ただし、土曜日、日曜日及び国民の祝日(振替休日を含む。)は受付を行いません。
- ② 郵送の場合は9月24日(火)17時15分必着とします。

(注) 出願期間後は一切受理しませんので、郵送による場合は郵送期間を十分に考慮して送付してください。

9 受験票等の送付

受験票、受験者心得及びその他の書類が令和6年10月15日(火)までに到着しない場合は、必ず教務課入試係に電話で照会してください。

10 試験場

鹿屋体育大学 白水キャンパス

所在地：鹿児島県鹿屋市白水町1番地 TEL 0994-46-4869

※ 試験場については、11, 12頁の位置図等を参照してください。

11 合格者の発表

令和6年10月28日(月) 10時

本学ホームページ (<https://www.nifs-k.ac.jp/>) 上で、「合格者受験番号一覧表」を発表するとともに、合格者には合格通知書及び関係書類を同日付で送付しますので、必ず確認してください。

なお、電話等による可否の問い合わせには、一切応じません。

12 入学手続・入学料等

合格者には、入学手続資料を案内しますので(令和7年1月中旬)、下記(1)入学手続期間内に入学手続を完了してください。

なお、入学手続期間内に入学手続を完了しないときは、本学の大学院体育学研究科体育学専攻(博士後期課程)入試合格者としての権利が消滅するので注意してください。

(1) 入学手続期間 令和7年3月17日(月)～3月24日(月)

(2) 入学料等学生納付金

① 入学料 282,000円(予定額)

ただし、本学大学院修士課程修了見込みの者は、入学料は不要です。

② 授業料 ・前期分 267,900円(予定額)

・年 額 535,800円()

ア 入学料・授業料については、予定額をお知らせしています。改定があった場合には、随時お知らせします。

イ 在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

③ 諸経費

学生教育研究災害傷害保険(通学中等傷害危険担保特約付)料(3年間)2,600円

学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険料(3年間)1,020円

鹿屋体育大学厚生会入会費 2,000円(本学出身者は不要)

13 第2次募集

入学定員に欠員が生じた場合は、下記の日程により第2次募集を行う場合があります。

第2次募集実施の有無については、令和6年12月2日(月)以降に本学ホームページ(<https://www.nifs-k.ac.jp/>)で情報提供を行います。

出 願 期 間	令和7年2月12日(水)～2月17日(月)
選 抜 日 程	令和7年3月11日(火)
合 格 者 発 表 日	令和7年3月14日(金)
入 学 手 続 期 間	令和7年3月17日(月)～3月24日(月)

14 指導教員及び副指導教員

本研究科体育学専攻の設置の趣旨に基づいて、人文・社会・自然の諸科学から総合的に「人間活動としての体育・スポーツ」について実践的な研究を進めるために、入学後に指導教員と2人の副指導教員の指導の下で研究を行うこととなります。出願に際して、「研究テーマ」及び「研究計画」に基づき指導教員として研究指導を受けることを希望する教員（研究指導教員となり得る教員）を、17・18頁の「6 体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）担当教員一覧」に記載されている①研究指導担当教員及び19頁の【連携大学院】①研究指導担当教員の中から選ぶ必要があります。

なお、出願の手続を行う前に、必ず研究指導を希望する教員と連絡を取り、あらかじめ入学後の履修・研究内容などについて相談を行ってください。教員の連絡先については、教務課入試係へ照会してください。

また、2人の副指導教員については、入学後に指導教員の指導の下に研究科担当教員の中から選ぶことになります。

15 障害のある者等の事前相談

障害（学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度）のある者等で、受験上及び修学上特別な配慮を必要とするものは、出願に先立ち、令和6年8月19日(月)までに、あらかじめ本学に電話で相談してください。

16 その他

- (1) 入学者選抜に関し、不正な行為又は虚偽の事実があった場合は、合格を取り消すことがあります。
- (2) 出願書類（外国語に関する公式認定証等の書類を除く。）は返却しません。
- (3) 受験についての詳細は、出願書類を提出した者に送付する「受験者心得」を参照してください。
- (4) 集合時刻に30分を超えて遅刻した者は、受験を認めません。
- (5) 個人情報保護に関する法律に基づき、個人情報（出願書類への記載内容及び試験成績）については、入学者選抜に係る業務（追跡調査を含む。）及び修学指導に使用します。
また、入学料・授業料免除（猶予）及び奨学金を申請した者にあつては、選考資料として使用します。
- (6) 学生募集要項に関し、不明な点や質問がある場合は、下記の問い合わせ先に照会してください。
なお、電話による問い合わせは、原則として志願者本人が行ってください。

◆問い合わせ先 〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学 教務課 入試係
T E L 0994-46-4869
F A X 0994-46-2533
E-mail nyushi@nifs-k.ac.jp

◆入試情報の提供

本学ホームページ（<https://www.nifs-k.ac.jp/>）で、入試情報等を提供しています。
なお、ホームページ上で、「合格者受験番号一覧表」を掲載しますが、必ず合格通知書で確認してください。

◆個人の入試情報の手続き方法

本人に開示する入試情報は、試験成績です。
開示期間：令和7年4月16日から5月15日まで（土曜・日曜及び国民の祝日（振替休日を含む。）を除く。）
手続き方法：詳細については、本学ホームページの「メニュー」→「受験生の皆様へ」→「入試情報（共通事項）」→「個人成績の開示請求」で確認してください。

17 福利厚生等

◆福利厚生

(1) 学生宿舎

学生に良好な勉学と生活の環境を提供し、共同生活を通じて人間形成を図るため、緑に囲まれた大学敷地内の一面に学部学生・大学院生兼用の学生宿舎を設置しています。

宿舎には、居室（個室）のほかに、補食談話室・浴室などの共用施設も完備しています。

宿舎の入居定員は、現在350人（うち女子70人）ですが、宿舎には希望者の全員は入居できません。選考は本学選考規定に基づく家計所得により選考の上、入居者を決定しています。

経費は、寄宿料及び光熱水料等の費用（令和6年度実績17,800円）が必要です。

なお、学生宿舎入居手続等については、入学手続資料の案内時に通知しますので、参照してください。

(2) 職員宿舎

本学大学院生については、本学の職員宿舎への入居が可能となっております。職員宿舎への入居を希望される場合は下記の問い合わせ先に連絡してください。

◆問い合わせ先	鹿屋体育大学施設課計画係 T E L 0994-46-4852 E-mail sisetu@nifs-k.ac.jp
----------------	--

(3) アパート等

アパートは地域、部屋の設備等により異なりますが、標準的な家賃は次に挙げるとおりです。

種 類	部屋の広さ	家 賃（月 額）
アパート（バス・トイレ付）	6 畳～8 畳	25,000 円～40,000 円程度

(4) その他

大学会館（白水キャンパス）には、食堂、ギャラリー、理容室、売店及びATMが置かれています。

◆入学料免除・入学料徴収猶予及び授業料免除制度

(1) 入学料免除及び入学料徴収猶予

次に該当する者は、願い出により入学料の徴収免除あるいは徴収が猶予されることがあります。

なお、申請手続等については、入学手続資料の案内時に通知しますので参照してください。

- ① 本学大学院に入学する者であって経済的理由により納付が著しく困難であり、かつ、学業優秀と認められる者
- ② 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等災害を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難であると認められる者

(2) 授業料免除

次に該当する者は、願い出により授業料の免除が認められることがあります。

なお、申請手続等については、入学手続資料の案内時に通知しますので参照してください。

- ① 経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者
- ② 入学前1年以内において、学資負担者が死亡し、又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等災害を受けた者
また、別途、「入学試験の成績優秀者」を対象とした入学料特別免除制度を設けています。

◆災害補償制度

学生が教育研究活動中において受けたケガ等の災害事故に対して、補償する制度として「学生教育研究災害傷害保険」（３年間）や、他人に怪我を負わせたなどの賠償責任事故に対して補償する制度として「学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険」（３年間）が設けられており、全員に加入していただいております。（保険料については、７頁の「12 入学手続・入学料等」(2)③諸経費を参照してください。）

そのほか、「国立大学法人学生総合補償プラン」「学研災付帯学生生活総合保険」（任意加入）があります。

◆奨学金制度

(1) 日本学生支援機構奨学金

学業、人物ともに優秀で、学費の負担が困難であると認められる者に対して、奨学金を貸与しています。

大学院生（博士後期課程）の貸与額は、第一種が月額８万円又は12万２千円（令和６年４月入学生）、第二種が月額５万円・８万円・10万円・13万円・15万円からの選択型となっています。

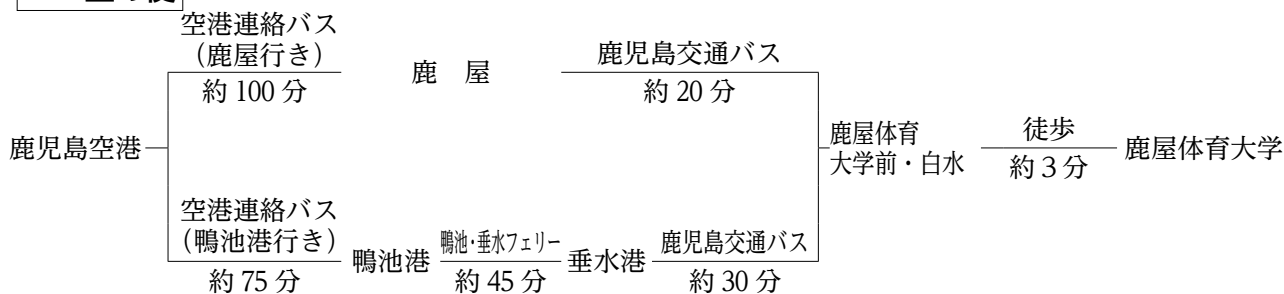
なお、奨学生採用については、日本学生支援機構から募集があった際に、掲示にて通知します。

(2) その他の奨学金

地方公共団体、民間の育英奨学事業団体等の奨学金も扱っています。

◆本学までの主な交通経路

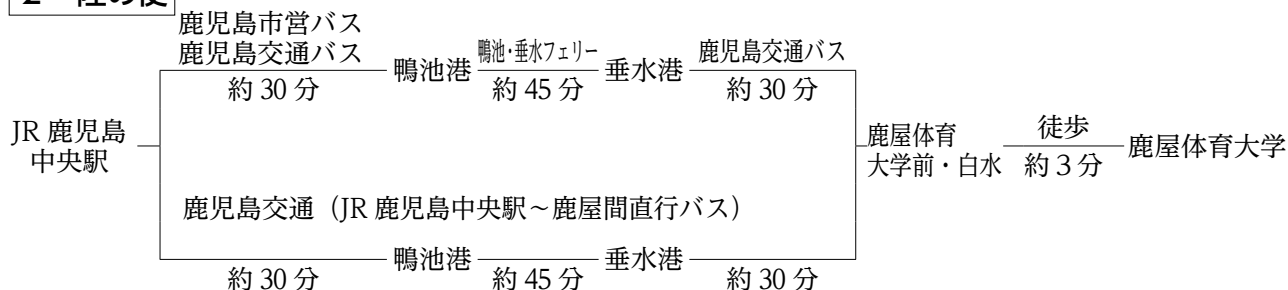
1 空の便



鹿児島空港からの経路

- ① 鹿児島空港から鹿屋市街地まで空港連絡バス（「鹿屋・東笠之原」行きの1系統のみ）が運行していますので，乗車し，「鹿屋」で下車してください。【所要時間 約100分】
「鹿屋」からは「垂水」，「垂水港」又は「中央病院」行きのバスに乗り「鹿屋体育大学前・白水」で下車してください。【所要時間 約20分】
- ② 鹿児島空港から鹿児島市内行きの空港連絡バスが出ていますが，乗車前に行き先が「鴨池港」行きであることを確認の上乗車し，終点の「鴨池港」で下車してください。【所要時間 約75分】
下車した所が鴨池・垂水フェリー発着所となっていますので，そこから「垂水港」行きフェリーに乗船してください。【所要時間 約45分】
垂水港からは鹿児島交通のバスが接続していますので，「志布志」又は「東笠之原」行きに乗車し，「鹿屋体育大学前・白水」で下車してください。【所要時間 約30分】
なお，タクシーを利用した場合，垂水港から本学までの所要時間は約30分です。

2 陸の便

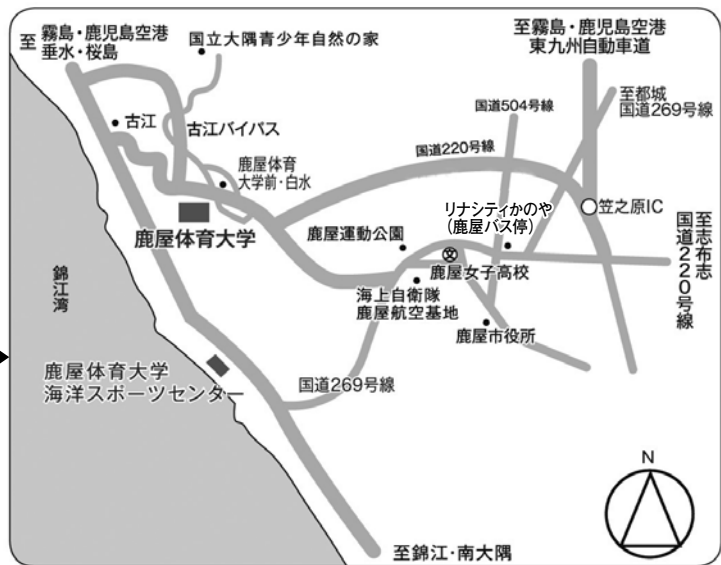


J R鹿児島中央駅からの経路

- ① JR鹿児島中央駅前から鹿児島市営バス又は鹿児島交通バスの「鴨池港」行きに乗車し，終点の「鴨池港」で下車してください。【所要時間 約30分】
タクシーを利用した場合，JR鹿児島中央駅から鴨池港までの所要時間は約20分です。
なお，鴨池港（鴨池・垂水フェリー発着所）から本学までの経路は，「鹿児島空港からの経路」の②と同じです。
- ② JR鹿児島中央駅前から鹿児島交通のJR鹿児島中央駅～鹿児島市街地直行バスに乗車し，「鹿屋体育大学前・白水」で下車してください。【所要時間 約105分】

（注）交通経路によっては，便数が限られていますので，バス等の運行状況（時刻表等）を事前に確認してください。

◆鹿屋体育大学位置図



◆入学検定料の払込取扱票等の記入方法

(注) 入学検定料の払込みは、令和6年9月11日（水）以降に、郵便局の受付窓口で払い込んでください。
ATMやインターネットバンキングからの払込みはしないでください。

払込みが済んだら、この部分を本学所定の
台紙に貼付し、提出してください。

各自保管

払 込 取 扱 票									
00 福岡		口座記号番号							
017404		52728							
加入者名		国立大学法人 鹿屋体育大学							
金額		30000							
備考									
※該当のいずれかを○で囲んでください。 ・大学院体育学研究科体育学専攻 修士課程 ・大学院体育学研究科体育学専攻 博士後期課程 ・大学院体育学研究科共同専攻 修士課程 ・大学院体育学研究科共同専攻 3年制博士課程 おところ おなまえ(フリガナ) 電話番号									
各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。 裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(承認番号第10288号) これより下部には何も記入しないでください。									
振替払込請求書兼受領証 口座記号番号 017404 加入者名 国立大学法人 鹿屋体育大学 金額 ￥30000 ご依頼人 様 料 金 円 備考 記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。 切り取らないでお出しください。									
振替払込受付証明書(お客さま用) (ご依頼人→郵便局・ゆうちょ銀行→ご依頼人) 口座記号番号 017404-52728 加入者名 国立大学法人 鹿屋体育大学 払込金額 ￥30000 志願課程名 () 課程 ご依頼人 様 住所氏名 日 附 印 (承認番号福証第933号)									

志願者の住所、氏名、電話番号等を記入してください。

志願者の氏名を記入してください。

志願者の志願課程、住所及び氏名を
記入してください。

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻
(博士後期課程) 入学案内

1 設置の趣旨・目的

近年の少子高齢化、体力・運動能力の低下、生活習慣病の増加等の社会状況の変化の中で、スポーツ活動に対するニーズは多様化、高度化しており、一人一人の体力、年齢、技術、興味・目的や運動による成人病・生活習慣病の予防などに応じて運動プログラムを開発し、効果的に実践に結び付け得る研究能力を備えた指導者の養成が求められています。

また、我が国の国際競技力は相対的に低下している状況にあり、国際競技大会で活躍する競技者の積極的な育成・強化が喫緊の課題となっており、競技スポーツの実践に対する深い理解とスポーツ科学に関する高度で総合的な知識を持ち、高い研究能力を備えた指導者の養成が求められています。

このような状況を踏まえ、本研究科体育学専攻（博士後期課程）では、修士課程での教育研究の成果を基盤として、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における諸科学等の研究の成果を学際的・統合的に把握し、新たな学際的複合領域の研究の開発及び研究の成果を実践に結びつけることのできる研究者や指導者の養成を目的としています。

さらに、社会人、国際的水準のアスリート、海外からの留学生を積極的に受入れ、国際的な教育研究の推進を図るとともに、教育研究の国際交流を通じて国内外の体育・スポーツ情報のネットワーク構築をめざしています。

2 教育研究上の特色

スポーツ活動に対する多様化・高度化したニーズに対応したより質の高いプログラムの開発や、国際競技大会で活躍できる競技者の育成・強化が図れる高度専門指導者には、人文社会学的な知識を含め、心身の機能や機構、発育・発達、健康と障害などに関する総合的な理解が求められており、その総合的な理解を進めるためには、学際領域の探求が必要不可欠です。

そのため、スポーツ活動の実践現場において、総合的な科学的トレーニングを実現するばかりでなく、医師や、体育・スポーツの専門指導者、あるいはコーチやトレーナーの抱える現場における諸懸案、又はスポーツ活動を取り巻く社会現象のもたらす諸問題を、それぞれ解決に導くための専門的研究を行い、実験室や研究室と現場との連携を図ることのできる創造的、実践的な高度専門指導者を養成し、確保することが強く求められています。

このような課題に応えるために、本研究科体育学専攻（博士後期課程）においては、授業科目を共通領域、スポーツ総合科学領域、スポーツ文化・社会科学領域、スポーツ生命科学領域に区分し、教育課程を編成しています。

教育課程の編成

本研究科体育学専攻（博士後期課程）においては、授業科目を共通領域、スポーツ総合科学領域、スポーツ文化・社会科学領域、スポーツ生命科学領域に区分し、教育課程を編成しています。

また、本研究科体育学専攻（博士後期課程）では、国立スポーツ科学センターなど他機関の協力を得て、競技スポーツや生涯スポーツに関するフィールド研究や最先端の機器を活用した実験研究等を行い、理論と実践を統合するための方法を検討する機会を提供するなど、体育学の研究の進展に即応した学際的、多角的な教育が行えるようにしています。

3 国立スポーツ科学センターとの連携大学院について

本研究科体育学専攻（博士後期課程）は、平成19年4月から独立行政法人日本スポーツ振興センターの国立スポーツ科学センターとの間で連携大学院を開始しました。

連携大学院とは、大学院が教育上有益と認める時は、その大学院の学生が他の研究所等において必要な研究指導を受けることができるとされているものです。

具体的には、博士後期課程学生のうち、希望する学生は、国立スポーツ科学センター（所在地：東京都北区西が丘3-15-1）を主な勉学の間として、博士後期課程の授業科目の履修及び研究指導を受けることが可能です。

また、連携大学院における教育研究指導は、国立スポーツ科学センターの研究員を客員教授及び客員准教授に委嘱し、現在の系・領域に対応する専門分野について、同センターの特色を生かした授業担当及び論文指導を行うことにしております。

なお、主として同センターにおいて履修及び研究指導を受ける学生が、本学で開講している授業

科目を受講する必要がある場合には、原則遠隔授業にて実施します。(主として本学において履修及び研究指導を受ける学生が、同センターで開講している授業科目を受講する必要がある場合も同様です。)

4 熊本大学・鹿児島大学・宮崎大学・福岡県立大学との連携大学院について

体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムでは、鹿屋体育大学を基幹大学として体育系の修士課程を有する熊本大学、鹿児島大学、宮崎大学及び福岡県立大学が連携・協力して博士後期課程の学生に対して教育・研究指導を行うことで、複合領域である体育・スポーツ科学についての高度な知識を有する学生を養成し、鹿屋体育大学大学院の「博士(体育学)」の学位取得を目指します。

鹿屋体育大学・熊本大学・鹿児島大学・宮崎大学・福岡県立大学に通学可能な、博士後期課程への進学を希望している修士課程の2年生、および体育・スポーツ・健康に関わる仕事に従事している現職の教員、行政職員、運動指導者・支援者等を対象としています。

詳細につきましては、本学ホームページ (<https://www.nifs-k.ac.jp/admission/graduate-school/doctor/cooperation-program/>) をご参照ください。

5 履修方法等

(1) 履修方法

修士課程(あるいは博士前期課程)において専攻した領域を基礎として主たる専攻領域を決定し、共通領域の「統合研究セミナー」(必修科目)と、博士後期課程にのみ開設する各系の授業科目の中から、指導教員と副指導教員が開設する科目を中心として、博士論文のテーマに関連する科目について、10単位以上を修得しなければなりません。

ただし、本学大学院体育学研究科体育学専攻(修士課程)修了者以外の者に対して、指導教員が必要に応じて、修士課程で開設する授業科目を別に履修させることがあります。

なお、科目履修においては、三つの領域からの学際的な科目の履修を主眼としますが、他の領域への視野も確保しながら、一つの領域における高度化への履修も可能としています。

(2) 専攻名及び定員

専攻	入学定員	収容定員
体育学	6人	18人

(3) 学期及び授業期間

学年を前期・後期に区分し、各授業科目は学期ごとに完結するよう開講されています。

- ・前期 4月1日から9月30日まで
- ・後期 10月1日から3月31日まで

6 体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）担当教員一覧（令和6年7月現在）

①研究指導担当教員（指導教員又は副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	小澤雄二 （教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】 ・身体教育特殊研究A【KR】 ・身体教育特殊研究演習A【KR】	1) 尿中および血中成分の変動を指標とした武道のトレーニング特性の検討 2) 安全で効果的な武道の指導のための用具の研究・開発 3) 柔道の授業のための実践的指導プログラムの研究・開発 4) 柔道選手の競技力向上に関する研究 以上の4つの方向から主に研究を行っている。
	関朋昭 （教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】 ・スポーツ経営学特殊研究 ・スポーツ経営学特殊研究演習 ・スポーツ経営学特殊研究【夜間】 ・スポーツ経営学特殊研究演習【夜間】	スポーツにおけるビジネス上の問題点、スポーツ組織（クラブ）が抱える課題をマネジメントの視点から研究している。特に学校部活動が主たる研究テーマとなっている。また人文社会科学の研究手法論をベースにしながら「スポーツとは何か」「スポーツの価値とは何か」という原理的な研究も行っている。
	高井洋平 （教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】 ・トレーニング科学特殊研究 ・トレーニング科学特殊研究演習 ・トレーニング科学特殊研究【夜間】 ・トレーニング科学特殊研究演習【夜間】	発育期の子ども、高齢者およびスポーツ選手を対象に、身体組成、筋機能および運動能力におけるトレーナビリティに関する研究を、運動生理学およびバイオメカニクス的手法を用いて行っている。
	高橋仁大 （教授）	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	スポーツにおける戦略・戦術分析のためのゲームパフォーマンス分析ならびにPerformance Analysisを行っている。特に映像を用いた分析ならびにフィードバック手法、またゲームパフォーマンス分析を基にしたゲームパフォーマンス評価に関する研究を進めている。これらの研究が実験室の研究で終わることなく、スポーツの実践場面に貢献できるような、フィールドでの実践的活動も重点的に行う。
	田巻弘之 （教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】 ・体力科学特殊研究 ・体力科学特殊研究演習 ・体力科学特殊研究【夜間】 ・体力科学特殊研究演習【夜間】	疲労及び筋持久力の改善に関する神経-筋系の制御機構や、運動刺激が筋・骨格系の組織細胞の形態や機能に及ぼす影響に関する領域をテーマとしている。また加齢や不動によって骨や骨格筋がどのように萎縮するのか、どのような運動・トレーニングで防止できるのか等について組織・細胞を各種顕微鏡で観察して解明しようとしている。
	中垣内真樹 （教授）	・ヘルスサイエンス特殊研究 ・ヘルスサイエンス特殊研究演習	中高齢者を対象として健康づくり、介護予防のための運動の実践方法やその効果について研究している。地域での効果的な運動の普及を目指して運動プログラムを作成し、実際に地域等で実践指導をしてその効果を検証しながら運動の有用性や意義を明らかにする。
	藤井康成 （教授）	・スポーツ医科学特殊研究 ・スポーツ医科学特殊研究演習	スポーツ医科学における整形外科的疾患の予防と運動療法について、特に肩・肘の上肢、膝・足の下肢関節のスポーツ障害を中心に、その病態や治療法、予防法に関して研究を行う。スポーツ選手の身体機能を評価するメディカルチェックを通して、体の柔軟性やアライメントの評価法から障害予防のためのトレーニング法などについても研究をすすめる。
	藤田英二 （教授）	・運動処方論特殊研究 ・運動処方論特殊研究演習	アスレティックトレーナーの専門領域であるアスレティックトレーニング、および高齢者の健康づくりについて研究を行っている。アスレティックトレーニングでは、特にスポーツによる外傷および障害予防に関するフィジカルコンディショニングや、そのトレーニング法に関して取り組んでいる。高齢者の健康づくりでは、健康高齢者から低体力の虚弱者まで幅広い層を対象とした運動の手法とその効果について研究している。
	堀内雅弘 （教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】 ・スポーツ生理学特殊研究 ・スポーツ生理学特殊研究演習	専門領域は運動生理学（呼吸・中心循環、および末梢循環応答）、および環境生理学である。具体的には、運動時の呼吸循環応答のメカニズムを明らかにしようとしている。この要因解明のために、環境要因（低酸素・暑熱等）を負荷した状況での実験研究を行っている。さらに、これら環境要因が脳循環応答に及ぼす影響と認知機能の関連についても検討している。
	前田明 （教授・副学長）	・スポーツバイオメカニクス特殊研究 ・スポーツバイオメカニクス特殊研究演習 ・スポーツバイオメカニクス特殊研究【夜間】 ・スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【夜間】	運動技術の習得を力学的に得るためにモーションキャプチャーシステム、ハイスピーカメラ、フォースプレート等を用いてバイオメカニクスの動作を分析する。競技力向上に関するトレーニング効果をバイオメカニクスの見地から考察する。
	三浦健 （教授）	・コーチング学特殊研究【夜間】 ・コーチング学特殊研究演習【夜間】	スポーツにおける技術面、戦術面、試合の運営等に焦点を当て、実践活動に直接寄与する知見を、数値データや画像データを提示することにより、「実践事例研究論文」として作成する方法論を用いた研究を行っている。また、実践事例研究論文作成のための方法論を確立するために取り組んでいる。
	森司朗 （教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】 ・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】 ・スポーツ心理学特殊研究 ・スポーツ心理学特殊研究演習 ・スポーツ心理学特殊研究【夜間】 ・スポーツ心理学特殊研究演習【夜間】	1) 幼少年期の心身両面からの運動発達 2) 運動認知メカニズムや運動学習のプロセスなどの理論的な研究及びメンタルトレーニングや認知トレーニングへの応用 3) コミュニティ心理学的アプローチを通して自閉症児の治療教育などの実践的研究 4) 脳内神経連絡経路などの基礎研究 以上の4つの方向から主に研究を行っている。
	山田理恵 （教授） [令和7年3月末退職予定]	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】 ・スポーツ史特殊研究 ・スポーツ史特殊研究演習 ・スポーツ歴史人類学特殊研究【夜間】 ・スポーツ歴史人類学特殊研究演習【夜間】	人間の「身体」や「身体運動」とそれらをめぐる諸現象について、歴史的考察を行っている。特に伝統スポーツに着目し、ドイツと日本の場合を中心に、それぞれの伝統的なスポーツ文化にみられる特性や文化変容の過程について考察している。
	梶ちか子 （准教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】 ・コープ特殊研究・実習	保健体育科教育学、舞踊教育学を専門分野とし、学校教育における体育・保健の授業づくりや学修成果・評価をテーマに、授業内容・学修過程・評価規準の設定の可視化を目的とした教材開発、授業改善に向けての授業実践等について、量的研究法と質的研究法を複合的に用いて研究を進めている。

①研究指導担当教員（指導教員又は副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	中本浩揮 (准教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】 ・スポーツ心理学特殊研究 ・スポーツ心理学特殊研究演習	スポーツの熟達化をテーマとし、優れた競技者の視覚システムおよび予測能力と運動修正能力といった知覚・認知技能の特徴やその獲得方法について、心理物理学、生理心理学的手法を用いて研究を行っている。
	永原隆 (准教授)	・コーチング学特殊研究【夜間】 ・コーチング学特殊研究演習【夜間】	スポーツ科学を研究領域とし、競技力向上に有用となる知見を得るために研究を行っている。スプリント走学を専門とし、子供から高齢者、アスリートを対象として、スプリント走の機序、評価法、効果的なトレーニング手段の解明を進めている。また、研究に用いる器具やソフトウェアの開発を行っている。
	沼尾成晴 (准教授)	・ヘルスサイエンス特殊研究 ・ヘルスサイエンス特殊研究演習	肥満や生活習慣病の危険因子を改善するための効果的な身体活動や運動方法の開発を目指し、呼吸や血液指標（生化学指標、アディポカイン）などを用いて、急性運動や慢性運動のエネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝）に及ぼす影響について応用的な研究を進めている。また、中高齢者に対する運動や身体活動を増加させるための方法、またその効果についても検討している。

②授業担当教員（副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	金高宏文 (教授)	・コーチング学特殊研究【夜間】 ・コーチング学特殊研究演習【夜間】	スポーツ運動における「技能の習得」や「動作の改善」時に生じる「コツ・カン」や「フォーム」の変化について調査・測定している。現在は、各スポーツ種目における初心・初級者のコツや技術、その指導・トレーニング方法を探求している。専門はスポーツ運動学及びトレーニング学で、スポーツバイオメカニクスと指導者育成・再研修のカリキュラム論についても取り組んでいる。
	竹中健太郎 (教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	我国発祥の伝統運動文化である武道（剣道）において、その競技性と文化性の共存に向けたコーチングの探求、構築を目指す研究を推進している。競技力向上の要因、あるいは技術習得の効率性についての実践的な検証と並行し、剣術が現代の剣道に見られる運動形態に発展する過程で伝承されてきた精神性を追求する。競技の発展と伝統文化の継承の二軸の視点から、後世への伝承の方法論について検討している。
	中村夏実 (教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	海洋スポーツ種目（特にボート、カヌー）における水上パフォーマンスの評価方法や総合的な競技力の評価体系の確立に取り組みながら、国際的な競漕力の獲得を目指すユバ世代の体力的・技術的目標の設定と目標達成のためのトレーニング方法を探求している。 一方で、海洋スポーツ全般の心身への健康増進効果のエビデンスの蓄積に取り組んでいる。
	安田修 (教授) [令和7年3月末退職予定]	・スポーツ医科学特殊研究 ・スポーツ医科学特殊研究演習	ミトコンドリアは生体のエネルギーの殆ど全てを生産し、生体の活動性や老化を左右する重要な細胞内小器官である。運動や骨格筋量がミトコンドリア機能に与える影響に関しての生物化学的な研究に取り組んでいる。また骨格筋量が生体の心臓、腎臓の機能や老化に与える影響について血液パラメーターや分子生物学的手法を用いた研究を行っている。
	和田智仁 (教授)	・スポーツバイオメカニクス ・スポーツバイオメカニクス特殊研究 ・スポーツバイオメカニクス特殊研究演習 ・スポーツバイオメカニクス特殊研究【夜間】 ・スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【夜間】	スポーツにおける情報通信技術の活用をテーマとし、慣性センサ等のウェアラブルセンサを用いた動作分析やデータの可視化、スポーツ現場におけるタブレット活用、映像のフィードバック手法などの研究に取り組んでいる。
	下川美佳 (准教授)	・コーチング学特殊研究【夜間】 ・コーチング学特殊研究演習【夜間】	武道（剣道）における稽古やコーチング方法の探究をテーマとし、現場の日常にある様々な活動を対象とした研究を進めている。主に、技能の習得や動作の改善時に生じる運動意識や動作の変化について、あるいは、打突に伴って発生する音に関する調査・測定などを行い、暗黙知の可視化に取り組んでいる。
	廣津匡隆 (准教授)	・スポーツ・リハビリテーション ・スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究 ・スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究演習	整形外科的スポーツ傷害の発症予防と運動療法について、特に膝・足の下肢や肩・肘の上肢のスポーツ障害を中心に、その病態・予防法・治療法に関して研究を行う。各スポーツにおけるスポーツ傷害発症のメカニズムを解明し、メディカルチェックなどを通して個人の身体的特徴を評価することにより、障害予防のための最適なトレーニング法などについて研究を行う。
	吉田剛一郎 (准教授)	・スポーツ栄養学特殊研究 ・スポーツ栄養学特殊研究演習	運動負荷にともなう生体内代謝変化について検討を行っている。栄養素の異化によるエネルギー産生および疲労をテーマとし、その一つとして脂肪酸代謝のコファクターであるカルニチンの末梢および中枢におけるはたらきを検討している。
	與谷謙吾 (准教授)	・体力科学特殊研究 ・体力科学特殊研究演習 ・体力科学特殊研究【夜間】 ・体力科学特殊研究演習【夜間】	外部刺激に対する身体の反応パフォーマンスについて、時間的側面（反応時間）から中枢（神経系）や末梢（筋系）の時間要素に区分して評価し、各系でのトレーニング等について研究を行っている。

【非常勤講師】

③授業のみを担当する教員

氏名（職名）	担当授業科目
川西正志 (非常勤講師)	・スポーツ社会学特殊研究 ・スポーツ社会学特殊研究演習 ・スポーツ社会学特殊研究【夜間】 ・スポーツ社会学特殊研究演習【夜間】
真田久 (非常勤講師)	・スポーツ歴史人類学特殊研究【夜間】 ・スポーツ歴史人類学特殊研究演習【夜間】
鈴木志保子 (非常勤講師)	・スポーツ栄養学特殊研究 ・スポーツ栄養学特殊研究演習 ・スポーツ栄養学特殊研究【夜間】 ・スポーツ栄養学特殊研究演習【夜間】

氏名（職名）	担当授業科目
宮地元彦 (非常勤講師)	・生涯スポーツ学特殊研究【夜間】 ・生涯スポーツ学特殊研究演習【夜間】
吉武裕 (非常勤講師)	・生涯スポーツ学特殊研究 ・生涯スポーツ学特殊研究演習

【連携大学院 (JISS)】

①研究指導担当教員（指導教員又は副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	星 川 雅 子 (客員准教授)	・アスリート・トレーニング科学 特殊研究【JISS】 ・アスリート・トレーニング科学 特殊研究演習【JISS】	アスリートが高い競技パフォーマンスを発揮するために必要となる有酸素性および無酸素性の運動能力、およびコンディショニングに関する研究を行っている。コンディショニングは、特に生体リズムとリカバリーに関する内容を中心に研究を行っており、海外遠征時や早朝・夜間に高い競技パフォーマンスを発揮するための生体リズム操作などが含まれる。

②授業担当教員（副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	山 下 大 地 (客員准教授)	・アスリート・トレーニング科学 特殊研究【JISS】 ・アスリート・トレーニング科学 特殊研究演習【JISS】	スポーツバイオメカニクスとストレングス&コンディショニングを専門とし、アスリートのパフォーマンス向上のための研究を行っている。ジャンプなどの基本的なスポーツ動作から、タックルなどの競技特異的な動作まで、さまざまな動作のパフォーマンスを評価し、それらを向上させるトレーニング方法について検討している。
	横 澤 俊 治 (客員准教授)	・アスリート・トレーニング科学 特殊研究【JISS】 ・アスリート・トレーニング科学 特殊研究演習【JISS】	スポーツバイオメカニクス、特に動作解析やスピード分析にもとづくパフォーマンス評価法について研究している。また、スピードスケート、陸上競技、ボート、トライアスロンなどにおける世界一流選手の動作の特徴や日本選手の課題について検討している。

【連携大学院】

①研究指導担当教員（指導教員又は副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	池 田 孝 博 (客員教授)	・体育・スポーツの 学際的科学論Ⅰ【KR】 ・体育・スポーツの 学際的科学論Ⅱ【KR】 ・身体教育特殊研究B【KR】 ・身体教育特殊研究演習B【KR】	スポーツ統計学・体育測定評価学の観点から、以下のようなテーマについて研究を行っている。 1) 幼児の体力・運動能力、身体活動とその関連要因に関する研究 2) 小学生の運動・身体活動に対する意識に関する研究（日韓比較研究） 3) 剣道のスポーツサーフェイス（床面）に関する研究
	井 福 裕 俊 (客員教授)	・体育・スポーツの 学際的科学論Ⅱ【KR】 ・身体教育特殊研究A【KR】 ・身体教育特殊研究演習A【KR】	生理学・運動生理学の観点から、1) 運動や自律神経刺激に対する心臓・循環システムの調節メカニズムの解明、2) 運動や自律神経刺激に対するアスリートの循環応答パターンの特徴、および3) 運動トレーニングに対する生体適応現象の解明を主として行っている。

②授業担当教員（副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	坂 本 将 基 (客員准教授)	・体育・スポーツの 学際的科学論Ⅱ【KR】 ・身体教育特殊研究A【KR】 ・身体教育特殊研究演習A【KR】	これまでは、ヒトが運動のイメージを行っているときの脳活動について、神経生理学的な手法を用いて調べてきた。現在は、主観的な身体の状態と客観的なそれとの間で誤差が生じる現象に着目し、この現象とアスリートの競技特性との関わりについて検討している。
	塩 瀬 圭 佑 (客員准教授)	・体育・スポーツの 学際的科学論Ⅱ【KR】 ・身体教育特殊研究B【KR】 ・身体教育特殊研究演習B【KR】	健康や競技パフォーマンスに及ぼす運動と食事の影響について、特に下記のテーマで研究を行っている。1) 競技力向上のための糖質摂取・貯蔵に関する研究、2) 生体電気インピーダンス法による身体組成評価の研究、3) 子どもの生活習慣と健康についての研究

【注意事項】

1. 授業科目名に【KR】と付記してある科目については、体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムとして実施する科目
2. 授業科目名に【JISS】と付記してある科目については、国立スポーツ科学センターにおいて開講する科目
3. 授業科目名に【夜間】と付記してある科目については、教育方法の特例として夜間（6～7限）に開講する科目

7 開設授業科目及び授業担当教員一覧（博士後期課程）（令和6年7月現在）

科目	科目群	領域	授業科目	担当教員	単位数		備考
					必修	選択	
共通	共通科目	共通	統合研究セミナー	指導教員・副指導教員	2		
			体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】	森（司）・高井・田巻・関・小澤・中本・[池田]		1	
			体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】	森（司）・[塩瀬]・梶・[井福]・山田・[坂本]・堀内		1	
			コープ特殊研究・実習	研究科教務委員会・梶		2～4	
専門科目	専門科目	スポーツ総合科学	スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究	廣津		2	
			スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究演習	廣津		2	
			ヘルスサイエンス特殊研究	中垣内・沼尾		2	
			ヘルスサイエンス特殊研究演習	中垣内・沼尾		2	
			運動処方論特殊研究	藤田		2	
			運動処方論特殊研究演習	藤田		2	
			トレーニング科学特殊研究	高井		2	
			トレーニング科学特殊研究演習	高井		2	
			コーチング学特殊研究	高橋・中村（夏）・竹中		2	
			コーチング学特殊研究演習	高橋・中村（夏）・竹中		2	
			アスリート・トレーニング科学特殊研究【JISS】	[星川]・[横澤]・[山下]		2	西暦奇数年度開講
			アスリート・トレーニング科学特殊研究演習【JISS】	[星川]・[横澤]・[山下]		2	西暦偶数年度開講
			スポーツ情報特殊研究【JISS】	（ ）		2	令和6年度不開講
			スポーツ情報特殊研究演習【JISS】	（ ）		2	令和6年度不開講
			身体教育特殊研究A【KR】	[井福]・小澤・[坂本]		2	熊本大学開設科目
			身体教育特殊研究演習A【KR】	[井福]・小澤・[坂本]		2	熊本大学開設科目
			身体教育特殊研究B【KR】	[塩瀬]		2	宮崎大学開設科目
			身体教育特殊研究演習B【KR】	[塩瀬]		2	宮崎大学開設科目
			トレーニング科学特殊研究【夜間】	高井		2	
			トレーニング科学特殊研究演習【夜間】	高井		2	
			コーチング学特殊研究【夜間】	永原・金高・三浦・下川		2	
			コーチング学特殊研究演習【夜間】	永原・金高・三浦・下川		2	
		スポーツ文化・社会科学	スポーツ史特殊研究	山田		2	
			スポーツ史特殊研究演習	山田		2	
			スポーツ社会学特殊研究	【川西】		2	
			スポーツ社会学特殊研究演習	【川西】		2	
			生涯スポーツ学特殊研究	【吉武】		2	
			生涯スポーツ学特殊研究演習	【吉武】		2	
			スポーツ経営学特殊研究	関		2	
			スポーツ経営学特殊研究演習	関		2	
			スポーツ社会学特殊研究【夜間】	【川西】		2	
			スポーツ社会学特殊研究演習【夜間】	【川西】		2	
			生涯スポーツ学特殊研究【夜間】	【宮地】		2	
			生涯スポーツ学特殊研究演習【夜間】	【宮地】		2	
			スポーツ経営学特殊研究【夜間】	関		2	
			スポーツ経営学特殊研究演習【夜間】	関		2	
			スポーツ歴史人類学特殊研究【夜間】	山田・【真田】		2	
			スポーツ歴史人類学特殊研究演習【夜間】	山田・【真田】		2	
		スポーツ生命科学	スポーツ心理学特殊研究	森（司）・中本		2	
			スポーツ心理学特殊研究演習	森（司）・中本		2	
			スポーツ医科学特殊研究	安田・藤井（康）		2	
			スポーツ医科学特殊研究演習	安田・藤井（康）		2	
			スポーツ生理学特殊研究	堀内		2	
			スポーツ生理学特殊研究演習	堀内		2	
			体力科学特殊研究	田巻・與谷		2	
			体力科学特殊研究演習	田巻・與谷		2	
			スポーツバイオメカニクス特殊研究	和田・前田		2	
			スポーツバイオメカニクス特殊研究演習	和田・前田		2	
			スポーツ栄養学特殊研究	吉田・【鈴木】		2	西暦偶数年度開講
			スポーツ栄養学特殊研究演習	吉田・【鈴木】		2	西暦偶数年度開講
			アスリート医科学特殊研究【JISS】	（ ）		2	西暦奇数年度開講
			アスリート医科学特殊研究演習【JISS】	（ ）		2	西暦偶数年度開講
			スポーツ心理学特殊研究【夜間】	森（司）		2	
			スポーツ心理学特殊研究演習【夜間】	森（司）		2	
			体力科学特殊研究【夜間】	田巻・與谷		2	
			体力科学特殊研究演習【夜間】	田巻・與谷		2	
			スポーツバイオメカニクス特殊研究【夜間】	和田・前田		2	
			スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【夜間】	和田・前田		2	
			スポーツ栄養学特殊研究【夜間】	【鈴木】		2	西暦奇数年度開講
			スポーツ栄養学特殊研究演習【夜間】	【鈴木】		2	西暦奇数年度開講

【注意事項】

1. 授業科目名に【KR】と付記してある科目については体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムとして実施する科目
2. 授業科目名に【JISS】と付記してある科目については国立スポーツ科学センターにおいて開講する科目
3. 授業科目名に【夜間】と付記してある科目については、教育方法の特例として夜間（6～7限）に開講する科目
4. 非常勤講師については、担当教員名を【 】で表記
5. 連携大学院における連携先教員については、担当教員名を〔 〕で表記

授業科目開設表（博士後期課程）（令和6年7月現在）

区分	科目群	領域	授業科目
共通	共通科目	共通領域	統合研究セミナー
			体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】
			体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】
			コープ特殊研究・実習

昼間開講（1～4限）			
鹿屋キャンパス，国立スポーツ科学センター			
科目	科目群	領域	授業科目
専門	専門科目	スポーツ総合科学	スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究
			スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究演習
			ヘルスサイエンス特殊研究
			ヘルスサイエンス特殊研究演習
			運動処方論特殊研究
			運動処方論特殊研究演習
			トレーニング科学特殊研究
			トレーニング科学特殊研究演習
			コーチング学特殊研究
			コーチング学特殊研究演習
			アスリート・トレーニング科学特殊研究【JISS】
			アスリート・トレーニング科学特殊研究演習【JISS】
			スポーツ情報特殊研究【JISS】
			スポーツ情報特殊研究演習【JISS】
			身体教育特殊研究A【KR】
			身体教育特殊研究演習A【KR】
			身体教育特殊研究B【KR】
			身体教育特殊研究演習B【KR】
		スポーツ文化・社会科学	スポーツ史特殊研究
			スポーツ史特殊研究演習
			スポーツ社会学特殊研究
			スポーツ社会学特殊研究演習
			生涯スポーツ学特殊研究
			生涯スポーツ学特殊研究演習
			スポーツ経営学特殊研究
			スポーツ経営学特殊研究演習
		スポーツ生命科学	スポーツ心理学特殊研究
			スポーツ心理学特殊研究演習
			スポーツ医科学特殊研究
			スポーツ医科学特殊研究演習
			スポーツ生理学特殊研究
			スポーツ生理学特殊研究演習
			体力科学特殊研究
			体力科学特殊研究演習
			スポーツバイオメカニクス特殊研究
			スポーツバイオメカニクス特殊研究演習
			スポーツ栄養学特殊研究
			スポーツ栄養学特殊研究演習
			アスリート医科学特殊研究【JISS】
			アスリート医科学特殊研究演習【JISS】



夜間開講（6～7限）			
遠隔授業			
科目	科目群	領域	授業科目
専門	専門科目	総合スポーツ科学	トレーニング科学特殊研究【夜間】
			トレーニング科学特殊研究演習【夜間】
			コーチング学特殊研究【夜間】
			コーチング学特殊研究演習【夜間】
		スポーツ文化・社会科学	スポーツ社会学特殊研究【夜間】
			スポーツ社会学特殊研究演習【夜間】
			生涯スポーツ学特殊研究【夜間】
			生涯スポーツ学特殊研究演習【夜間】
			スポーツ経営学特殊研究【夜間】
			スポーツ経営学特殊研究演習【夜間】
			スポーツ歴史人類学特殊研究【夜間】
			スポーツ歴史人類学特殊研究演習【夜間】
		スポーツ生命科学	スポーツ心理学特殊研究【夜間】
			スポーツ心理学特殊研究演習【夜間】
			体力科学特殊研究【夜間】
			体力科学特殊研究演習【夜間】
			スポーツバイオメカニクス特殊研究【夜間】
			スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【夜間】
			スポーツ栄養学特殊研究【夜間】
			スポーツ栄養学特殊研究演習【夜間】

【注意事項】

1. 授業科目名に【KR】と付記してある科目については，体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムとして実施する科目
2. 授業科目名に【JISS】と付記してある科目については，国立スポーツ科学センターにおいて開講する科目
3. 授業科目名に【夜間】と付記してある科目については，教育方法の特例として夜間（6～7限）に開講する科目

※授業担当教員の許可を得て，開講している授業時間帯において遠隔での受講が可能な場合は，相互に受講できるものとし，該当科目群の単位として認定する。

8 学位の授与

本研究科体育学専攻（博士後期課程）を修了した者には、「博士（体育学）」の学位を授与します。

なお、博士の学位は、本研究科体育学専攻（博士後期課程）に3年以上在学し、授業科目について10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与します。ただし、特に優れた研究業績をあげた者については、在学期間を1年以上とすることがあります。

9 大学院設置基準第14条に定める「教育方法の特例」

(1) 趣旨

社会人学生に対して、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を実施することによって、標準修業年限3年間ににおける大学院での修学を容易にし、最新の体育科学に関する再教育、高度な研究能力及び実践的な応用能力・知識を育成する機会を与えることを目的としています。

本研究科体育学専攻（博士後期課程）では、原則として、標準修業年限のうち1年次は学業に専念し、2年及び3年次において夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を受けることができます。

なお、この教育方法の特例は、適用を希望する社会人学生に対してのみ実施されます。

特例の適用対象となる学生は、入学時に社会人（有職者）である者又は在学中に社会人（有職者）となった者です。

なお、社会人の定義は、「職業上、恒常的に昼間大学で授業を受けられない者」です。

(2) 授業の実施方法

授業は原則遠隔授業にて次のとおり開講します。

第6時限：18：30～20：00 第7時限：20：10～21：40

また、昼間（通常の授業時間帯）の授業科目を履修することも可能です。

なお、授業開講の申し出があった場合には、特定の曜日や夏期・冬期休業期間に授業を行うこともあります。

さらに、授業担当教員と相談の上対面授業を実施する場合があります。

(3) 教育方法の特例の適用を希望する場合

教育方法の特例の適用を希望する場合、事前に教務課教育企画係（TEL0994-46-4862）にご連絡ください。

10 長期履修学生制度

本研究科体育学専攻（博士後期課程）には、長期履修学生制度があります。これは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（3年）で修了することが困難な大学院生が、標準修業年限を超えて一定の期間（4年、5年又は6年）にわたり、計画的に教育課程を履修し課程を修了することをあらかじめ申請し、審査の上、許可されるものです。

なお、長期履修学生の授業料年額は、学生が標準修業年限（3年）在学した場合の授業料総額を、長期履修学生として許可された修業年数（4年、5年又は6年）で分割した額となります。ただし、許可された修業年数を超えて留年した場合は、留年分の授業料は一般学生と同額となります。

また、一般学生と同様に在学中に授業料が改定される場合があります。

入学手続の際に案内しますので、希望者はその際に申請してください。

申請手続時期：入学手続時又は、入学後1年以内とします。

ただし、やむを得ない事情により入学後1年を超えて長期履修が必要となった場合は、研究科教務委員会で審議のうえ、学長が認めた場合は許可されることがあります。なお、入学後（在学中）の申請は、収容定員を超えている場合には、許可されないことがあります。

出願の際は、必ず募集要項（冊子）を入手し、添付されている願書等により出願してください。

体育学専攻（博士後期課程）学生募集要項（冊子）添付書類

- ① 入学願書
- ② 研究計画書
- ③ 研究歴証明書
- ④ 志望理由書
- ⑤ 体育・スポーツ歴調書
- ⑥ 指導活動計画書
- ⑦ 出願書類等提出一覧表
- ⑧ 受験票・写真票
- ⑨ 払込取扱票
- ⑩ 【入学検定料振替払込受付証明書（お客さま用）】貼付用台紙
- ⑪ 入学試験関係書類在中封筒（黄色）
- ⑫ 出願用封筒（薄緑色）